様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　2023 年 12 月 27 日

１．職名・氏名　　准教授　　松岡　孝恭

２．学位　　学位　博士（応用経済学）、専門分野　統計学、
授与機関　大阪大学、授与年月　2010 年 3 月 23 日

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 統計学（2 単位）1 年次
②内容・ねらい ［内容］　統計学と確率論の基礎を学び、推定や検定といった統計的推測の原理を習得する。 ［ねらい］　以下の能力の養成：（１）確率の考え方を理解して基本的な確率分布について確率の計算ができる、（２）点推定、区間推定、仮説検定の原理を理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 （１）Web カメラを使って板書の内容や統計的推測に関する実験の様子を撮影･記録した。（２）撮影した内容を教室のスクリーンに映し、対面で受講する学生にとって十分な受講環境を提供した。（３）講義終了後、記録した動画を Google Classroom 上で配信した。これにより対面で受講できない学生に対して講義を提供できた。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 計量経済学（2 単位）2 年次
②内容・ねらい ［内容］　2 つの変数の因果関係を分析する回帰モデルに関する推定と検定の手法を習得する。 ［ねらい］　以下の能力の養成：（１）回帰分析の前提となる統計的な考え方が理解できる、（２）モデルから出てきた結論を理解して結果について解釈できるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 （１）毎回の講義に液晶ペンタブレットを持参し、教室のスクリーンに PDF 形式の講義資料に手書きする様子を映した。電子的な板書に切り替えたことで講義資料の説明をより充実させることが出来た。（２）計量経済学の理論的な説明に加えて、同時期に取り組んだ研究についても学生に解説し、理論的な内容が実際の研究に活用されている様子を伝えた。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎ゼミ（2 単位）2 年次
②内容・ねらい [内容]　オープンソースソフトウェアの Python を使って、データを分析していくうえで必要になる様々な技法を実習形式で学ぶ。 ［ねらい］　以下の能力の養成：（１）Python の基本的な使い方を知り、自分でプログラムが組めるようになる、（２）Web 上の統計データからデータベースを作成できるようになる、（３）データ分析の内容を再現可能な形でレポートできるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 （１）経済学の基本的な内容を題材にプログラミングの実習を行った。具体的には消費者の予算制約にともなうトレードオフについてで、ある所得と相対価格の下で消費者が購入可能な財の数量の組合せを結果として返すプログラムを書いた。（２）作成したプログラムが目下の経済問題―食料品価格の上昇が家計の消費選択にもたらす影響など―を解く糸口となることを示した。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
外書講読Ⅰ（2 単位）2 年次

② 内容・ねらい
[内容]　総務省統計局が編集している Statistical Handbook of Japan 2023 を読む。内容に関する議論を通して統計データの図表を読み解くと同時に、教科書には載っていないより詳細なデータや最新の統計データをプログラム的に取得し、レポートを作成する手法を解説する。
［ねらい］　以下の能力の養成：（1）ハンドブックに収められた幅広いトピックに関するデータを観て日本経済のすがたをよく知る、（2）ハンドブックから経済データの示し方を学び、統計データを使って議論を展開する能力を養う、（3）様々なデータを総合的に判断して経済に関するレポートを書く力を身につける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
以下の工夫を行った。（1）教科書の記述やグラフや表の理解に必要な経済学・会計学などの知識を解説し、受講者の理解を助けた（2）統計データの内容を伝えるための英語表現について解説し、受講者の習熟度を高めた（3）経済データをプログラム的に取得してレポートを書くという課題を期末レポートとして課し、データ活用能力の向上を図った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅰ（4 単位）3 年次

②内容・ねらい
[内容]　自分で設定した経済に関する問題に対して統計データを使って答えを出す実証分析を行う。問題設定の仕方から参考文献表の作り方など具体的な論文の書き方まで、およそ論文を作成するために必要な知識を学ぶ。また設定した問題に対して答えを出す過程で必要となるデータ分析の手法を学ぶ。統計解析から得られた結果を分かりやすく論文にまとめるため、図表の作り方やプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
［ねらい］　以下の能力の養成：（1）自らの問題を設定し主体的に研究する力を身につける、（2）論文の書き方を学び、構造的に分かりやすい文章を書けるようになる、（3）文献の読み方、論文を引用するマナー、参考文献表の付け方を身につける、（3）統計解析ソフトを使って、再現可能性のある実証分析を行えるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
以下の工夫を行った。（1）統計データ解析ではフリーソフトウェアの Python を使って、データの取得、前処理、統計分析に至るまでの内容を解説した（2）テーマに応じた経済データを取得する過程で積極的に協力し、プログラムを使ったデータの取得ができるようにした（3）論文の執筆をする際に、再現性のある形で書く方法を伝えた。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅱ（4 単位）4 年次

② 内容・ねらい
［内容］ 演習Ⅰで取り組んだ実証分析の結果を踏まえて、より発展的な分析を行う。また、演習Ⅰで学んだ調査・研究の方法と論文執筆に関するノウハウを生かして卒業論文に取り組む。実証分析の手法と能動的に読み書きする能力を身につけ、現実のデータから意味のある結果を導くことを目標とする。
［ねらい］　以下の能力の養成：（1）基礎的な計量モデルを理解し、（2）自分の問いを軸に文献を読み、（3）分析結果を構造的にしっかりとした論文にまとめ、（4）プレゼンで分かりやすく伝えられるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
（1）分析テーマにあわせてデータを取得・加工し、分析するプロセスを受講者とともに進めた（2）統計データを分析するため Python のプログラムを書く訓練を行った（3）受講者の問題意識が経済学や統計学とどう結びつくか示して、論文のテーマの方向性を示した。

(2)その他の教育活動
内容 東進ハイスクール広報部の企画に協力し、経済学部の紹介動画の作成（東進 TV 大学学部「学びが見える」企画）を行った。また動画に出演し、基礎ゼミでの教育場面をもとに少人数教育の様子を伝えた。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①　　著書 【０本】
②　　学術論文（査読あり） 【０本】
③　　その他論文（査読なし） 【０本】
④　　学会発表等 【０件】
⑤　　その他の公表実績 【０本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）
総務省，「令和５年度地方統計機構支援事業（福井県景気動向指数のうち消費・サービス分野の採用指標に係る評価等に関する支援）」の入札に係る外部技術審査員（2023 年 8 月から 2023 年 9 月まで）

①-2 委員就任（県）
公益財団法人中部圏社会経済研究所，令和 5 年度地方統計機構支援事業検討会委員（2023 年 10 月から 2024 年 3 月まで）

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講
統計学入門（講師）福井県立大学経済学部 ふくい企業価値共創ラボ（リカレント講座） 福井県立大学 2023 年 12 月 8 日

⑦その他
「【福井県立大学経済学部】経済・経営どちらも学べる｜プログラミング・地元企業の社長による授業も！？」（https://www.youtube.com/watch?v=aPdTVWW1v5c）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
オープンキャンパス学部企画運営委員 東進 TV 大学学部「学びが見える」企画　窓口 情報教育・DX 委員
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス（8 月 6 日） オンライン交流会（8 月 21 日） 白樫祭でのミニオープンキャンパス（10 月 14 日、15 日）
(4)その他、自発的活動など